

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

技術情報第3号

水稻の葉いもちの発生状況について

本年は梅雨明けが早く、高温・少雨が続けているにもかかわらず、7月中旬以降も葉いもちの発生が増加しています。

発生の多いところでは穂いもちの多発生に繋がらないよう、ほ場での発生状況の把握に努め、適期防除の徹底について指導願います。

- 1 対象作物名 水稻
- 2 病虫害名 葉いもち
- 3 発生地域 県下全域
- 4 発生状況

(1) 県内48の定点ほ場における8月2半旬の発病株率は8.6%（平年8.1%、前年8.7%）で、平年・前年並であった。しかし、発生ほ場率は45.8%（平年28.0%、前年34.1%）で、平年・前年よりやや多かった（図）。

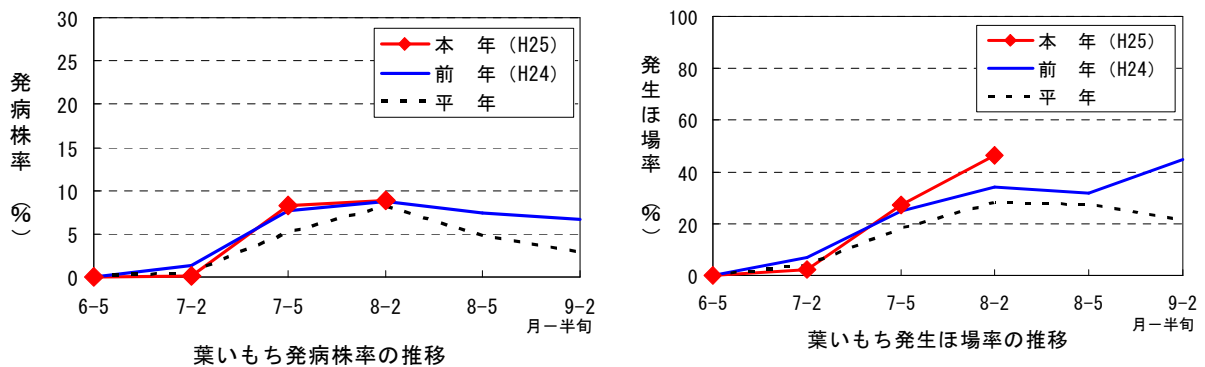


図 葉いもちの発病株率および発生ほ場率の推移
* 上位3葉に病徴が認められた株を調査

(2) 本年は、早植水稻で6月下旬～7月中旬にかけて葉いもちが急増し、多発生した地域が認められ、発病株率100%のほ場も確認された。7月8日の梅雨明け以降、病徴はあまり進展していないものの、8月初旬が不順な天候となったため、進展したほ場が認められている。また、普通植水稻でも、発生が増加している（表）。

表 定点ほ場における移植期別の葉いもちの発生状況

移植時期	調査ほ場数	発病株率 (%)		発生ほ場率 (%)	
		7月5半旬	8月2半旬	7月5半旬	8月2半旬
5月下～6月上旬 (早植)	15	21.0	17.4	46.7	53.3
6月中～6月下旬 (普通植)	33	2.5	4.6	18.2	42.4

5 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生状況は、ほ場毎に異なるため必ず出穂前に、発病状況を確認する。
- (2) 葉いもちが発生しているほ場や、周辺ほ場で発生している場合には、穂いもちが発生しやすいので、出穂直前と穂揃期の2回防除を基本とする。
- (3) 常発地及び降雨が続く場合は、早め（出穂期2週間前）に粒剤の施用を行う。
- (4) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。
- (5) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。

